

目 次

- P.1 「音のない歌」に出会う
P.2-3 所沢の昔ばなしとゆかりの場所
P.4-5 さようなら、「平成」
P.6 図書館活用法
編集後記

「音のない歌」に出会う 高橋こうじ



去年の暮れに『日本の童謡・唱歌をいつくしむ』という本を出しました。これは、童謡や唱歌に出てる懐かしい言葉、ちよつと難しい言い回しなどを取りあげて解説する本。教科で言うなら国語で、音楽の本ではありません。でも、約八カ月、いつも頭の中に童謡があったことで、私の音楽の楽しみ方に思ってもみなかった変化が起きました。「音のない歌」にハマってしまったのです。マニアックな話と思われるかもしれませんが、誰でも簡単に試せるという意味では普遍性のある楽しみ方なので、紹介させていただきます。

この楽しみに道具や準備は要りません。場所は、電車の中や夜の寝床といったぼんやりできる所が最適。そこで「故郷」「七つの子」「赤とんぼ」といった、歌詞をそらんじている歌を、音の動き、言葉の響きのおもしろさを感じつつ、声を出さず、心の中で歌うのです。と、私の中で聞き手の私が頭をもたげ、その心は

すぐに歌の美しさに包まれます。実際に歌えば必ず起きる声の上ずりや音程のふらつきがない空想の歌唱はとても端正で、歌そのものの美を伝えてくれるからです。だから、つい声を出して唱和したくなっても、そこは我慢。私はこれを「脳内音楽会」と名づけ、この一年、大いに楽しみました。

でも、ここで疑問が一つ。これは音楽でしょうか。現実には音はまったく鳴っていません。当然、耳の鼓膜が音をとらえ、聴覚神経の興奮が脳に伝わり：、という現象も起きていません。けれど、心を満たすのは音楽の喜び以外の何物でもない。この事実は、音楽の喜びが単純な生理的反応ではなく、より深い何かであることを伝えてくれます。つまり、脳内音楽会で聞きます。つまり、脳内音楽会に聞く歌は、音楽の美とともにその神秘も感じさせてくれる。だからハマってしまうのです。さらに言えば、歌手の声やオーディオ機器といった媒体をいっさい

通さずに歌を味わうので、山田耕筰、野口雨情といった偉大な作曲家、詩人の心と自分の心が直接つながっている、という感覚を持てます。これも大きな喜びです。

どんな生き物にもそれぞれの喜びがあると思いますが、おそらくこんなことを楽しめるのは人間だけでしょう。将来、私は病气や老いのせいで床につき、声が出ず、目や耳も不自由になるかもしれません。が、そのときも、この脳内音楽会は開けます。暗く静かな世界で「故郷」や「七つの子」を歌うとき、私は今生を人間として生きたことを心からありがたく思うに違いありません。

高橋 こうじ

一九六一年、所沢市生まれ。舞台、テレビの仕事を経て二〇〇〇年に文筆家に転じ、言葉と会話に関するエッセイを執筆。

著書に『クイズで楽しむ日本語のふしぎ』（新水社）、『日本の大和言葉を美しく話す』（東邦出版）等

所沢の昔ばなしと ゆかりの場所



所沢の昔ばなしをご存知でしょうか。実は所沢には数多くの昔ばなしが存在します。その中のいくつかのお話の紹介と、ゆかりの場所についてご案内します。

①『河童のわび証文』

昔、柳瀬川に一匹の河童が住んでいました。夏になると川遊びに来る人間の肝を抜き取ってしまうため、誰も怖がって川に近寄らなくなりました。

ある日、ひとりの馬方が川岸の草むらに馬をつないで仕事をしていると、突然馬の悲鳴が聞こえてきました。急いで馬方が駆けて行ってみると、馬の腹に河童が食いついて



いました。馬方は勇気を出して河童に飛びかかり、なんとか河童を捕まえると……。

☆ゆかりの場所
「持明院」

所沢市北秋津八五

②『とんぼのやどり木』

かつて、家来に無理なことをばかり言って困らせる殿様がいました。ある日、家来と共に、トンボが飛び交う日月神社の近くまで散歩にきていた殿様は、「トンボをわしの



年の数だけとってまいれ」と家来に命じました。家来たちは困りながらも、なんとかトンボを捕まえますが、年の数にはあと一匹足りません。怒った殿様は……。

☆ゆかりの場所
「日月神社」

所沢市北秋津三六七

③『福猫塚』

昔、喜平次という桶職人が住んでいました。ある夜のこと、喜平次は飼っている猫が、行灯の影で踊っている姿を見ました。喜平次は驚きましたが、誰にも言わず、可愛がっていました。ところが、その頃から桶屋の商売がうまくいかなくなり……。

☆ゆかりの場所
福猫をまつるお堂があった旧鎌倉街道

④『あっちいっちいの新光寺』

河原宿（現在の宮本町）の新光寺に優しくてお人好しの和尚さんが一人で住んでいました。そんな和尚さんの悩みは、お寺の近くに住んでいる一匹の狸。最初は和尚さんのお経姿を真似していただけでしたが、毎晩必ずやってくる夜中まで世間話をするように



なりました。疲れ切った和尚さんは……。

☆ゆかりの場所
「新光寺」

所沢市宮本町一七七一三

⑤『車返しの弥陀』

昔、奥州の藤原秀衡は、運慶の作った弥陀三尊を守本尊として拜んでいました。

この弥陀三尊にご利益があるということとで源頼朝が欲しがり、渋々、頼朝に贈ることとなりました。弥陀三尊を車に載せ、数十人の従者に護らせて鎌倉へ向け出発しましたが、途中で急に車が動かなくなりました……。

☆ゆかりの場所
「来迎寺」

所沢市山口一三九二一

⑥『三つ井戸』

真夏のある日、優しい娘の家に旅僧が訪れ、水を一杯恵んでくれと言いました。家から井戸までは遠く離れているものの、娘は嫌な顔をせずに、旅僧の



ために水を汲んできました。夏になると水が涸れ、水汲みで苦労している娘の話聞き、旅僧はある場所へ娘を案内すると……。

☆ゆかりの場所

「三つ井戸の碑」

所沢市西所沢一―二六

(弘法橋のたもと)

⑦ 『ねずみ薬師』

昔、新田義貞という武将がいました。当時の、日本の政治実権を握っていた足利氏と戦を繰り返していましたが、いつも敗れていました。とうとう、



立ち向かえなくなると、義貞は人目のつかないところに隠れて、足利勢の勢力が弱まる時を待ちます。しかし、足利勢の勢力はますます強くなり、だれも歯向かえなくなりました。戦うことを諦めた義貞は坊さんになり、生涯を閉じます……。

☆ゆかりの場所

「薬王寺」

所沢市有楽町八―一八

⑧ 『滝の城の竜』

八王子城の出城である滝の城(柳瀬地区)には、不思議なことが頻繁に起きていました。地震でもないのに台地が揺れたり、井戸が急に干上がった、火が噴き出したりしていました。また、ある時は見張りの兵が皆、かすり傷一つもなく死んでいることもあり

ました。山伏に頼んで占ってもらうと、城を築く前に土地に棲んでいた竜の祟りであることが分かりました。そこで殿様は、竜を退治することを決意して……。



☆ゆかりの場所
「滝の城跡」 所沢市城五三七

⑨ 『桜刈地蔵尊』

二〇〇年ほど前に、山口の町に『かね善』という染物屋がありました。主人の善兵衛には吉之助という美青年な息子がおり、山口の新堀に住む、美人のおりんと結婚することになりました。二人は

村中から羨ましがられましたが、おりんはそれどころではありません。善兵衛からは厳しく働かせられ、吉之助は遊んでばかりいたからです。



☆ゆかりの場所
「桜刈延命地蔵尊」

所沢市山口二七四四

所沢の昔話、いかがでしたでしょうか。これらのお話は次に紹介する本にまとめられています。物語の結末が気になる方は是非、図書館で手にとってみてください。

【参考資料】

- ・『ところざわふるさと散歩』 (所沢市民俗研究会／編)
- ・『所沢の伝説』 (所沢市立富岡公民館)
- ・『所沢の民話と伝説』 (文化会館)



さようなら、「平成」

平成二年

平成四年

○本館開館十周年

○柳瀬分館開館

○学校との連携事業開始

○司書によるブックトーク開始

平成七年

○入間市・狭山市・飯能市との四市で相互利用開始

平成九年

○CDの貸出を開始

平成十一年

○貸出冊数が一人四冊から五冊になる

○インターネットによる蔵書検索・予約が可能となる

○本館において夏季期間の火曜日は午後八時まで開館時間が延長

平成十二年

○第一回図書館まつり開催

平成十四年

○図書館のマスケット「トベア」が誕生

平成十七年

○コンビニエンスストア図書等取次事業を開始

★所沢図書館の平成を振り返る

もう間もなく、平成が終わりを告げようとしています。所沢図書館は、平成時代にどのような歴史を刻んできたのでしょうか。

分館は…

平成四年に柳瀬分館が開館し、その二十年後の平成二十四年に、新所沢公民館に併設した、新所沢分館が開館しました。また、平成二十二年には、所沢分館が建物の老朽化を理由に移転し、新しい図書館として生まれ変わりました。平成二十四年からは分館七館において、指定管理者による運営が始まりました。民間活用を利用した新たなサービス展開を図り、講演・講座の充実や、祝休日開館が全館で可能になりました。



司書の学級訪問の開始

平成四年に小学校三年生を対象に司書の学級訪問（ブックトーク）が始まりました。主に授業の一コマを使って、読み聞かせやクイズを交えながら本の紹介を行っています。多くの子どもたちに読書の楽しさを知ってもらいたい、という願いを込めて始まったこの取組みは、今年で二十七年目を迎えました。



所沢図書館まつり始まる

市民と図書館が手を取り合って作りあげる一年に一度の所沢図書館まつり。今年で十九回目を迎えました。記念すべき第一回目は、所沢市制施行五十周年記念事業として、平成十二年に開催されました。おはなし会や映画会、人形劇、講演会など、多岐にわたるイベントを、当時は九日間にわたって開催しました。

『トベア』誕生！

平成十四年に開催された「子ども読書の日」関連の行事のなかで、図書館マスコットの名前を公募する、「としよかんのマスコット『くま』なまえぼしゅう」が市内全館で行われました。そこで集まった数ある候補の中から、当時、小学二年生の女の子が考えた『トベア』に決定したので



コンビニエンスストアでの図書等取次サービス！

図書館が近隣にない方や、開館時間中に来館できない方の利便性を考慮して、平成十七年から、市内のコンビニエンスストアで予約本が受け取れるサービスを行っています。現在は六カ所で展開しており、取次ポイントの拡大に努めています。

平成の時代において、所沢図書館では時代や利用者のニーズに合わせた、様々な取り組みを行ってきました。

新しい時代を迎えても、地域に根ざしたサービスを積極的に行っていく、充実させていきたいと考えています。

平成十八年

○移動図書館事業を廃止

平成二十年

○耐震工事に伴う、本館のリニューアルオープン

平成二十一年

○「所沢市子どもの読書活動推進計画」を策定

○貸出冊数が十冊になる

平成二十二年

○所沢分館を所沢ハーティア東棟一・二階に移転開館する

平成二十四年

○新所沢分館開館。分館七館において、指定管理者による管理運営を開始する

平成二十五年

○雑誌スポンサー制度を開始
○「所沢図書館ビジョン」を策定する

平成二十六年

○レファレンス事例の一部を国立国会図書館レファレンス協同データベースおよび、図書館ホームページで公開する

○「第2次所沢市子どもの読書活動推進計画」を策定

平成二十八年

○子どもの読書活動優秀実践図書館として文部科学大臣表彰を拝受

※所沢図書館平成年表

★元号が変わる！

平成三十一年（二〇一九年）五月一日に、新たな元号へと移行します。一体、どんな元号になるのでしょうか。ここで元号について紹介します。

現代は一世一元の制

現代は、天皇の即位を祝して一つの元号が制定されます。これを一世一元の制と言います。



明治元年（一八六八年）に二世二元の制が定められる以前は、天皇一代の間に、何

度も改元が行われることもありましたが、例えば、幕末の孝明天皇の時代では、嘉永から慶応（一八四八年〜一八六八年）まで六回も改元が行われています。明治以前は、どのような改元が行われたのかを、いくつかご紹介いたします。

祥瑞改元

祥瑞改元は主に奈良時代に集中して行われた改元で、縁起が良いことが起きたときに行われま

した。例えば、白い雉きが朝廷に献上されたことで「白雉」という元号に変わりました。



災異改元

災異改元は主に平安時代に主流だった改元です。疫病の流行や地震や津波などの天変地異、戦乱が打ち続くときに行われました。凶事が続いた元号を捨て、平和を迎えるために新しい元号を制定したのでした。

——この他にも様々な理由で改元が行われていました。

新元号を決めるときは、文字の条件とは？

さて、新元号はどのようにして決められるのでしょうか？具体的なルールや手続きは元号法に基づいて政令で定められます。その中でも考案者が留意する項目は、

- ① 国民の理想としてふさわしいような、良い意味を持つものであること。
- ② 漢字二字であること。
- ③ 書きやすいこと。
- ④ 読みやすいこと。

⑤ これまでの元号又はおくり名として用いられたものではないこと。

⑥ 俗用されているものではないこと。

と、されています。平成の場合は『史記』と『書経』の、「内平らかに外成る」、「地平らかに天成る」という文言が由来となりました。これには「内外、天地とも平和が達成される」という意味が込められています。

次の時代にふさわしい名前を決めるのですから、考案者には非凡な学識が求められるのです。

終わりに...

平成が終わり、新しい元号が制定されるこの機会に、元号について書かれた本を手にとって、読んでみてくださいね。

【参考資料】

- ・『元号と天皇から日本史を讀む方法』（河出書房新社）
- ・『元号でたどる日本史』（PHP 研究所）
- ・『元号』（文春新書）



図書館活用法



前号に続き、これまでに所沢図書館で解決した、皆さんの疑問（事例）の一部をご紹介します！

Q 「重松流祭りばやし」について知りたい！

A 重松流祭りばやしは、江戸の神田流・葛西流祭りばやしと共に有名な流派です。所沢市を中心として東京都北多摩郡や西多摩郡の一部に伝承されています。

この曲は所沢生まれの古谷重松（一八三〇〜一八九一）によって編み出されました。重松は府中市の大國魂神社で笛を修行し、その後、研究を重ねて一派を成しました。本職は商人でしたが、近郷近在に出かけて行き、祭りばやしを指導しました。

重松流ばやしの特徴は、決まった譜を持たずにすべて口伝であることです。その時の雰囲気、相手のたたき方を

見抜いて自分で工夫し、即興的に自由に変奏する行為を「チラシ」と言います。また、大太鼓（オオカン）一人、小太鼓（ツケ）二人、鉦（ヨスケ）一人、笛（トンビ）一人の五人一組を基本構成としています。



祭り囃子の系譜として、所沢市内の重松流は、主に山車祭りの際に行われる旧町地域と、鎮守の祭礼に行われる旧

町周辺の農村地域の二つに大別することが出来ます。お座敷で行われるような静かな囃子ではなく、山車の上で雄壮に演じられるケンカ囃子であり、ツツカケ囃子であるといわれています。



【参考資料】

- ・『重松流祭囃子沿革史』（所沢 重松流祭囃子保会）
- ・『所沢市史 民俗』（所沢市史編さん委員会）
- ・『所沢市史 文化財・植物』（所沢市史編さん委員会）



編集後記

◆今回、「所沢の昔ばなしとゆかりの場所」の取材で、市内各地をまわりました。普段何気なく通り過ぎていた場所も、その地に伝えられている出来事を知ると、ちよつと違った場所に感じます。

（K）

編集発行：所沢市立所沢図書館 〒359-0042 所沢市並木 1-13
 ホームページアドレス パソコン <https://www.tokorozawa-library.jp/>
 携帯電話 <https://www.tokorozawa-library.jp/k/>
 スマートフォン <https://www.tokorozawa-library.jp/opw/OPS/OPSINDEX.CSP>

電話 / FAX
 本館 04-2995-6311 / 04-2992-1421
 所沢分館 04-2923-1243 / 04-2928-8195
 椿峰分館 04-2924-8041 / 04-2928-8148
 狭山ヶ丘分館 04-2949-1193 / 04-2949-8577
 松井小学校図書館 04-2992-2796 / 04-2992-2797

富岡分館 04-2943-3636 / 04-2943-6680
 吾妻分館 04-2924-0249 / 04-2928-8250
 柳瀬分館 04-2944-4023 / 04-2945-7236
 新所沢分館 04-2929-1905 / 04-2929-1906